

株式会社ジェイコムウエスト
第八回（平成 30 年 11 月度） 放送番組審議会 議事概要

第八回の放送番組審議会は、平成 30 年 11 月 19 日（月）、株式会社ジェイコムウエスト本社において、7 名の審議委員が出席し開催。審議会では、会長進行のもと、『コミュニティチャンネル 放送番組紹介』『災害時緊急特番（大阪府北部地震）』『災害時緊急特番（台風 21 号）』を視聴し、番組に関する審議を行った。

■ 出席委員

会 長	梶原 義秀	（門真地区保護司会 理事）
副会長	富永 俊裕	（須磨 FRS ネット 事務局長）
委 員	赤崎 弘平	（大阪府立大学 非常勤講師）
	小山 敬子	（「オフィス KEIKO」代表）
	中川 修一	（高槻まつり振興会会長）
	長友 文子	（和歌山大学 教授）
	松田 須英子	（伏見大手筋商店街振興組合 理事）

■ 審議番組

『コミュニティチャンネル 放送番組紹介』
『災害時緊急特番（大阪府北部地震）』（6 月 18 日放送）
『災害時緊急特番（台風 21 号）』（9 月 4 日放送）

■ 主な発言

【災害特番について】

（情報の伝え方）

- ・大阪府北部地震特番について、高槻の映像が繰り返し流れているが、いつ、どの場所の画面なのかが分からなければ意味がない。
- ・大阪府北部地震特番について、当日の詳細な情報がない。翌日でなく災害当日にリアルな情報をどう流せるか、この対応が遅れると致命的。
- ・ローカルな取材なので、「どこに避難するか」を映像で見せることはできると思う。
- ・場所・住所を掲載しても良いのではないか。
- ・同じものを流すよりも、給水などローカルな情報を。電話番号などを入れる、文字と映像で。
- ・災害放送は、高齢者に対しても必要な情報が的確に伝わるように、「避難所は役所に聞いて下さい」だけでなく、電話番号くらいは掲載すべき。
- ・災害現場のスタッフが電話で状況を説明してはいるが、これを話しているだけでな

く文字にできなかったのか。最後にせめて手書きでも、被害状況の総括を伝えることが出来たのでは。

- ・ 予報士やアナウンサーの話の中で、特に重要なものや補足事項などについて画面（文字等）に出してほしい。細かな情報を出してもらうことが、NHKとの線引き。
- ・ 台風 21 号については有効なテロップも流れており、映像もリアル感が伝わった。
- ・ 民放では同じような映像が流れるが、ケーブルテレビさが出ておりコミチャンならではだと思った。
- ・ 災害時にどうアナウンスするのだが、高齢者・子供・外国人にも分かるようにする必要性。日本人には当たり前だが文字が難しい。「やさしい日本語で伝える」（「安全な場所ににげて」「断水でなく水が出ない」等）。特に大阪には在住外国人も多い。
- ・ 災害時にはNHKと協力してもよいのでは？
→行政をはじめ各所がSNSで情報発信していることもあり、リツイートすることで情報の集約につなげることは一つの手段としてある。
- ・ 民放との差別化についてはどう考えているか。
→地域に備える細かな情報は「デイリーニュース」とし、発災後の断水情報等は各行政に分かれるため、エリアごとの情報を、L字テロップなどで掲出している。エリアごとに内容を切り分けて出している点が差別化と考えている。

（アナウンサーの対応）

- ・ 大阪府北部地震特番は非常に聞き取りやすいと感じた。
- ・ 台風 21 号のMCがアナウンサーではないスタッフによる緊急放送ということだが、必要なアナウンスのスキルは習得しておくべきである。
- ・ 原稿を読む人がMC以外の場合、本来MCではないことを理解してもらうため所属を入れるなどの対応が必要。また、少々見苦しい点があったとしても、懸命に取り組んでいる姿勢が視聴者に伝わるのが大事。
- ・ 一般社員も J : COMとしての一員である自覚が必要。顔の表情は大事で、最小限の身なりを心掛けてほしい。

（情報の収集について）

- ・ 高槻の場合、水道管が破裂した映像が出ているが、結果的に断水の原因は、淀川の給水管が破裂したことによる影響だったが、あの時点の映像からは、そうした事実は読み取れない。
- ・ ブロック塀の扱いはどうしたか、台風 21 号について、安治川の防潮堤は閉じたと報じられていたが、実は淀川も満水になっていた。そういったことは取り上げないのか。

【コミュニティ番組全体について】

- ・番組の中に手話を取り入れることは難しいか。
 - 一部、行政の広報番組の中で採用しているものもあるが、全体的には、今後検討すべき事項とする。
- ・デイリーニュースの不審者情報は、限られたエリアの身近な情報なので助かっている。
- ・歴史ものが好きで、関西見聞録は勉強になっている。好きな番組ではあるが、誤字などミスもあるので、その点は改善いただきたい。
 - 番組内容の企画・調査は誰がしているのか？
 - 当番組については、協力会社が企画・制作している。
 - 協力会社とともに、全域で流せるものを企画してほしい。

以上、これらの発言いただいたご意見を、現場の制作スタッフや関係者にフィードバックし、今後の制作に役立てることを事務局よりお伝えし、番組審議会を終了した。

以上